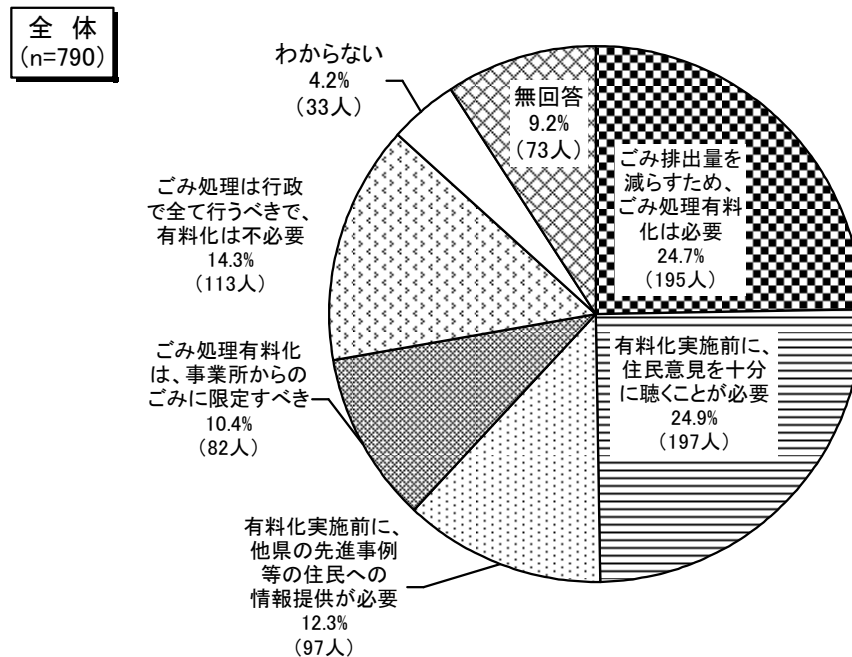


6 廃棄物対策について

(1) ごみ処理有料化についての考え

問25 家庭ごみ減量化のために進めている市町村のごみ処理の有料化（現在、27市町村で実施、ごみ袋の販売価格への料金に上乗せ）について、どのように考えますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



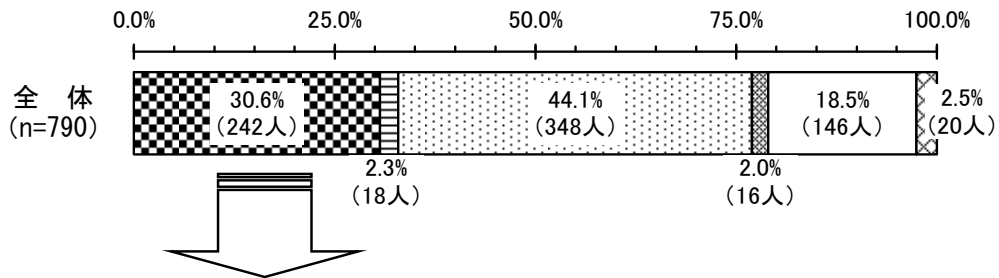
ごみ処理の有料化は、「有料化を実施する前に、住民の意見を十分に聴くことが必要である」（24.9%）と考える人が最も多い。次いでほとんど差がなく「ごみの排出量を減らすためには、ごみ処理有料化は必要である」（24.7%）が続き、以下、「ごみ処理は行政で全て行うべきで、有料化は必要ない」（14.3%）、「有料化を実施する前に、まず他県の先進事例等について、住民への情報提供が必要である」（12.3%）、「ごみ処理の有料化は、事業所から排出されるごみに限定すべきである」（10.4%）となっている。

「わからない」が4.2%である。

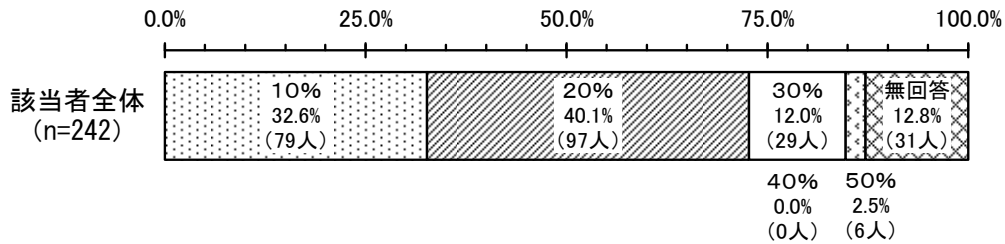
(2) 県外産業廃棄物受け入れについての考え

問26 あなたは、今後、県外の産業廃棄物の受け入れについてどのようにしたらよいと考えますか。
 あてはまるもの1つに○をつけてください。
 なお、1番を選んだ方は何%までならよいと思うかについても、あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 県外のものをある程度は受け入れてもよい
- 県外のものは一切受け入れるべきではない
- わからない
- 県外のものを積極的に(50%を超えて)受け入れてもよい
- その他
- 無回答



《受け入れてもよい県外廃棄物の量》

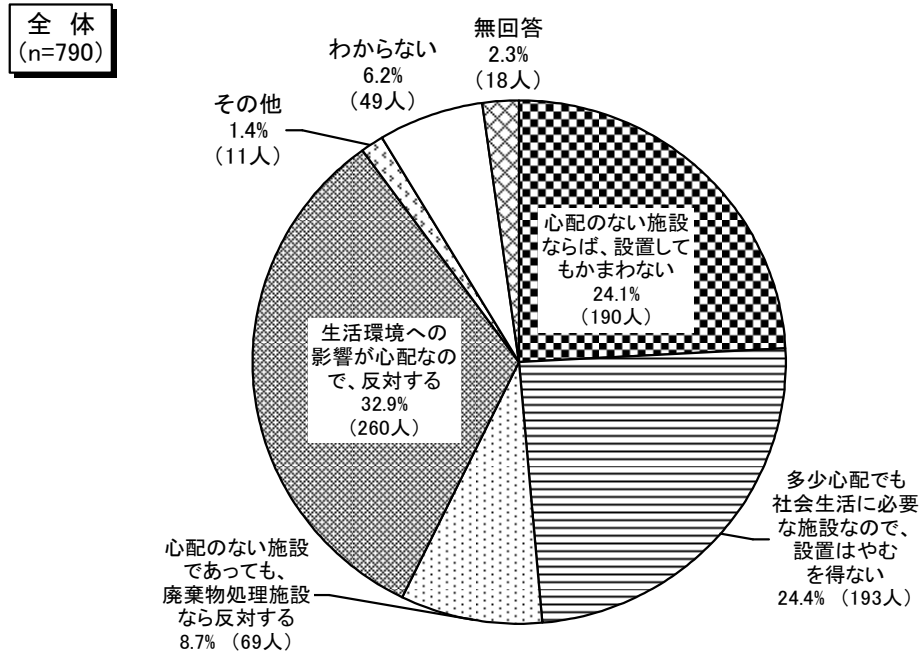


県外の産業廃棄物の受け入れは、「県外のものをある程度は受け入れてもよい」(30.6%)と考えている人が3割となっている。「県外のものを積極的に(50%を超えて)受け入れてもよい」が2.3%、「県外のものは一切受け入れるべきではない」が44.1%、「わからない」が18.5%となっている。

また、「県外のものをある程度は受け入れてもよい」と回答した人に、受け入れてもよい廃棄物の量を尋ねたところ、「20%」(40.1%)が最も多い回答となった。以下、「10%」(32.6%)、「30%」(12.0%)、「50%」(2.5%)となっている。

(3) 廃棄物処理施設設置が計画された場合の対応

問27 お住まいの近くに廃棄物処理施設の設置が計画された場合、どのように考えますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

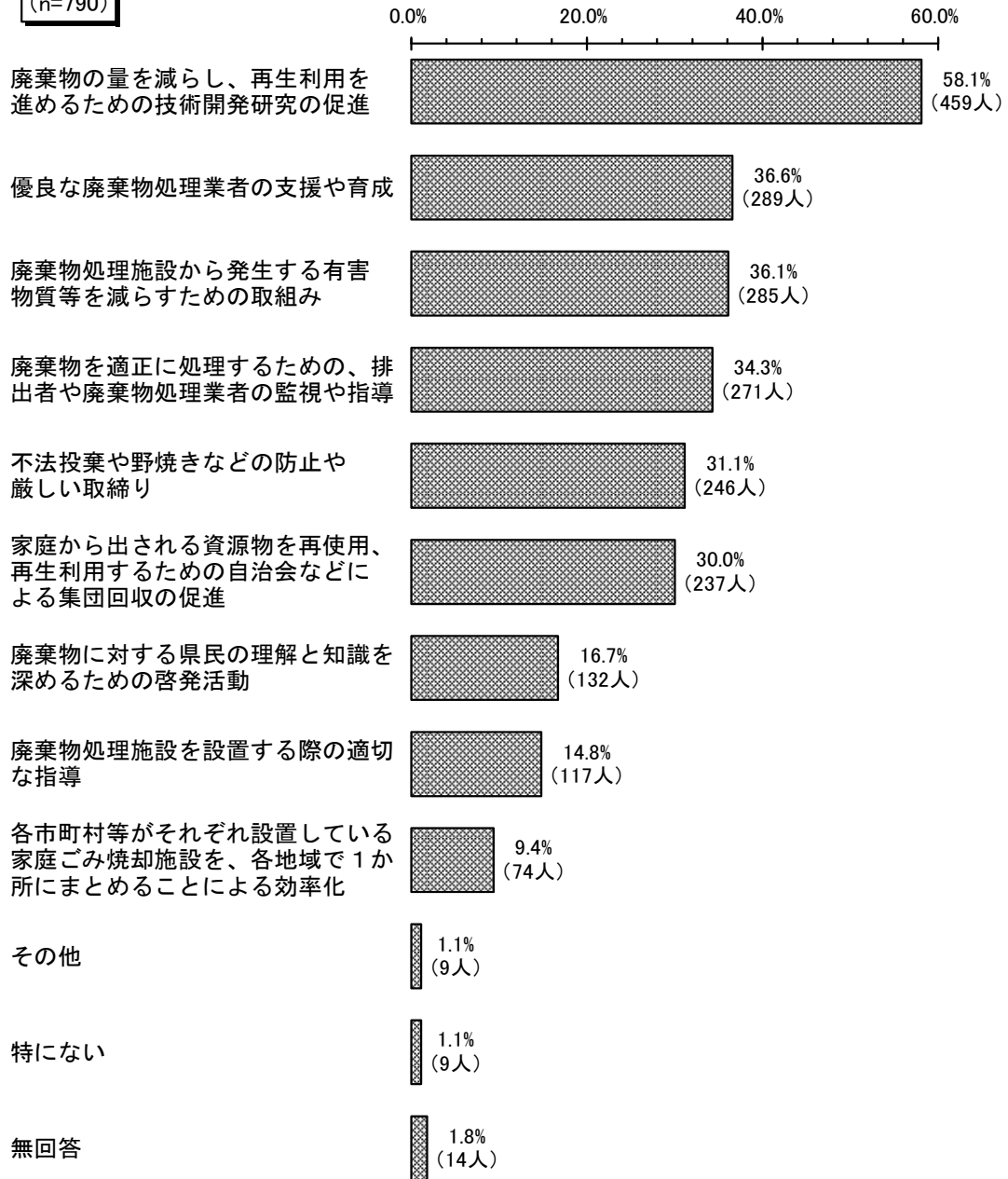


廃棄物処理施設設置が計画された場合、「生活環境への影響が心配なので反対する」(32.9%)が最も多く、3割強を占めた。以下、「多少心配でも社会生活に必要な施設なので、設置はやむを得ない」(24.4%)と「心配のない施設ならば、設置してもかまわない」(24.1%)が2割台、「心配のない施設であっても、廃棄物処理施設なら反対する」(8.7%)が1割弱となっている。
また、「わからない」が6.2%となっている。

(4) 廃棄物対策で重点をおいてほしいこと

問28 福島県の廃棄物対策に対して特に力を入れてほしいと思うことはどのようなことですか。
あてはまるもの3つまで○をつけてください。

全体
(n=790)



重点をおいてほしい廃棄物対策は、「廃棄物の量を減らし、再生利用を進めるための技術開発研究の促進」（58.1%）が最も多く、6割弱を占めた。

以下、「優良な廃棄物処理業者の支援や育成」（36.6%）、「廃棄物処理施設から発生する有害物質等を減らすための取組み」（36.1%）、「廃棄物を適正に処理するための、排出者や廃棄物処理業者の監視や指導」（34.3%）、「不法投棄や野焼きなどの防止や厳しい取締り」（31.1%）、「家庭から出される資源物を再使用、再生利用するための自治会などによる集団回収の促進」（30.0%）が3割台、「廃棄物に対する県民の理解と知識を深めるための啓発活動」（16.7%）と「廃棄物処理施設を設置する際の適切な指導」（14.8%）が1割台、「各市町村等がそれぞれ設置している家庭ごみ焼却施設を、各地域で1か所にまとめることによる効率化」（9.4%）が1割弱となっている。